

令和 6 (2024) 年度 栃木県立宇都宮東高等学校 学校評価報告書

教育目標	1 博く深く知識の修得に努め、自主積極的に事物を究明し、正しい判断力を養う。	今年度の重点目標	「一人ひとりの生徒を中心に据えた品格と魅力のある学校文化の創造」					達成度	・アンケート・教職員評価の肯定的意見
	2 心身を鍛練して、不撓不屈、堅忍持久、活動的にして、実践力に富む道徳性を養う。		1 「正剛寛」の実践指導による、大志を抱いて未来を創造できる生徒の育成						
	3 自他の敬愛と相互協力の理念に徹し、責任を重んじ規律を守り、協調融和の精神を養う。		2 「授業第一主義」による学力の向上と読書指導の推進						
	4 自己を育んだ一切の他力に深く思いを致し、感恩奉仕の信情を高める。		3 安全性の確保の上に立った基本的生活習慣の確立と学校行事・部活動等の活性化						
			4 リーダーシップ・フォロワーシップ及び寛容性・対話力の育成						
			5 教育改革の流れを踏まえた、知的好奇心を喚起し探究心を養うための学習指導及び進路指導の充実						
			6 中高一貫教育校としての体制の充実						

学 校 自 己 評 価								学校関係者評価	令和 7(2025)年度に向けた改善策
現 状 と 学 校 評 価 実 施 計 画					達 成 状 況			【中高一貫】 生徒が、学校にワクワクするような取組を期待したい。 中高一貫教育校ならではの魅力、育てたい資質・能力についてご検討いただきたい。 【リーダーシップ】 ・生徒募集においては、本校の特色を十分に出すようにしていただきたい。例えば、大学進学実績や学力も重要だが、未来を切り拓くリーダーを育てることに留意してほしい。 【生徒指導】 生徒間トラブルが起きたときに、友人や教員など、周りの人に相談できる雰囲気づくりを継続してほしい。 【探究心】 生徒の探究心を育てて生徒自らが考える力を育成する必要がある。その際、企業との連携なども視野に入れて推進していくことも有効である。	【全体】生徒を中心に据えた組織的な指導の継続と、中高6年間を見据えた指導の在り方を検討していく。 面談の時期や内容を精査しながら、生徒の自己実現をサポートしたい。 引き続き特別支援教育情報等の全職員での共有を徹底し、組織的かつ適時・適切な支援・援助に活用する。 個々の学力や各学力層に応じて、個別最適な学習指導を展開していく。 今後も知的好奇心を満たす読書が計画的にできるような方策を立てる。 県の諸事業を活用し保護者の協力を得るとともに、生徒が主体的に意識高揚に努められるよう支援する。 引き続き保護者との情報共有の方法を工夫するとともに、主体的な活動の様子を伝えられるよう努める。 教員間で共通理解のもと学校生活安全全般においてリーダーやフォロワーを意識させる指導を根気強く継続して行っていく。 生徒が互いを理解し、認め合う気持ちを育む教育活動を継続していく。 生徒の学ぶ意欲を喚起し、深い学びへとつながる授業改善を継続して実施していく。 大学や予備校等の情報も共有しながら適切な指導につなげていきたい。 今後も「中高交流の時間」を継続するとともに、学校行事や部活動などにおいて中高生が共に学び、共に活動する機会を増やしていく。
重点	生徒の現状と課題	評価項目	主な方策	評価指標	アンケート		達成状況と課題		
					生 徒	保護者		教職員評価 達成度	
1	・自己実現に向けて前向きに努力している。 ・悩みを抱えた繊細な生徒の個別対応が必要である。	①個人面談の充実	・生徒の自己実現に向けてきめ細かく面談を行う。	生徒・保護者アンケート結果を参考にした教職員評価	A	B	A	・適切な時期に面談を実施し、生徒の状況把握に努めたい。	
		②個に応じた適切な指導	・特別な支援を要する生徒の情報共有に努め適切な指導を行う。		A	B	A	・HR 担任等からの情報を全職員で共有し、組織的かつ適時・適切な支援・援助に努める。	
2	・授業態度は良好だが、学力差が大きい傾向にある。 ・家庭において、活字を読まず、読書話題を家族と共有していない生徒が多い。	①各学力層に応じた適切な学習指導	・各学力層の状況を的確に把握し、各層に応じた学力向上のための支援を行う。		A	B	A	・生徒の学力を的確に把握し、各層に応じた学習支援を継続して行う。	
		②読書の習慣化の継続指導	・学校と家庭が連携して読書環境を整え、読書意欲を喚起する。		B	B	B	・生徒、保護者ともに評価は上がっているので、職員間で意識を共有して指導を継続していく。	
3	・防犯意識、交通マナーには向上の余地があり、きめ細かな指導が必要である。 ・学校行事・部活動等において、熱心に取り組む生徒が多い。	①安全性の確保と基本的生活習慣の確立	・防犯意識を高める。交通マナーの向上、自転車用ヘルメットの着用を促し安全意識を高める。		A	A	B	・更なる規範意識高揚と自転車盗難被害の防止、ヘルメット着用促進と保険加入の徹底を図る。	
		②安全性の確保の上で諸活動の活性化	・安全性を確保した上で、生徒が学校行事等でさらに主体的に取り組む場面を設ける。		A	A	A	・生徒が更に主体的に学校行事等に取り組み達成感に繋がるよう保護者との情報共有に努める。	
4	・学校生活の様々な場面でリーダーの存在と役割を意識できるような指導を工夫する必要がある。 ・様々な教育活動や経験等を通じ、寛容性や対話力等の醸成が求められている。	①リーダーとしての資質の向上	・学校生活の様々な活動においてリーダーだけでなくフォロワーとしての資質も育成する場面を設け適切な指導を行う。		B	B	A	・学校行事だけでなく、授業を含めた日常生活においてリーダーやフォロワーを意識させるような指導を継続する。	
		②相互理解につながる教育活動の充実	・多様な他者と交流できる教育活動を確保し、寛容性や対話力等を醸成する。		A	A	A	・様々な交流の場を通して、寛容性・対話力が醸成されているので、これを継続する。	
5	・知的好奇心が高い生徒に対し、深い学びにつながる授業改善が求められている。 ・志望の実現に向けて真摯な態度で努力する生徒が多い。	①深い学びにつながる学習指導の継続	・生徒の意欲を高め、深い学びにつながる授業の実践と改善について引き続き努めていく。		B	B	A	・授業公開などを通して継続して授業の工夫・改善を図り、生徒の意欲を喚起する。	
		②個々の進路希望に応じた指導の充実	・情報を共有し、生徒の実態に応じた適切な指導を行う。		A	B	A	・検討会や学年の打ち合わせ等を通して情報を共有し、適切な指導につなげていきたい。	
6	・中高一貫教育校としての体制はできているが、中高生が共に学び、活動する機会を増やすことが課題。	①中高連携の工夫と改善	・昨年度から実施している中高交流の時間の充実とともに、様々な場面で中高の生徒が交流する機会をつくっていく。		A	B	A	・今年度も「中高交流の時間」を2回実施したが、貴重な交流の機会となったので、内容を工夫しながら今後も継続していく。	